7月号

麻布幼稚園だより

港区立麻布幼稚園
園長　佐藤　幸子

共通体験を基に

園長　佐藤　幸子

先日、うめ組がみなと科学館へ遠足に行きました。天候にも恵まれ、往復歩いて行きました。「車や自転車、歩いている人もいるので、自分でよく見て、音を聞いて安全に歩きましょう」と伝えて2人組で手を繋いで歩きました。友達と一緒に話しながら楽しく歩いていると、時々、話に夢中になって前の人との間隔が空いてしまうこともありました。でも、後ろの友達が「間が空いているよ」と教えてくれたり、自分で気付いたりして間を詰めることができました。自分から気付くことができるのは、さすが年長組です。

さて、科学館ではみんなでプラネタリウムを観てきました。部屋の電気が徐々に消えて、暗くなると「怖い」と言いながらもどこかうれしそうです。うめ組の子どもたちは3回目なので、東京タワーやスカイツリーなどを見付けて楽しんでいました。友達と一緒に1番星や星座を見付けるのは、楽しくて近くの友達と感じたことを伝え合っていました。

遠足の次の日、子どもたちは早速、「プラネタリウムがつくりたい」と友達と一緒につくり始めました。中に入って星が観られるようにするにはどうしたらよいか考えました。担任の援助もあり、黒いビニール袋を開いて丸く穴を開け、カラーセロハンを貼ることにしました。大きなビニール袋は鯉のぼりづくりのときにも使っています。セロハンテープで赤や黄色のセロハンを貼ると光を通してとてもきれいです。友達との共通体験があるので、星のイメージが共通になり目的意識がもちやすかったため、次の日も次の日も遊びが続き、どんどん形になっていきました。他の遊びをしていた子どもたちも気になってのぞいていました。

プラネタリウムができると、中に入って寝転んで観てみます。「きれい」と星空の様子に心が躍ります。「枕をつくろう」と思いつき、ビニール袋に新聞紙を詰めて水色やピンクの枕もできました。子どもたちは実際に動きながら、思いや考えがわいてきます。こんな風にしたいという考えを一緒に遊ぶ友達や教師に伝え、今までの経験を基にあれを使ったらできるかな？とイメージを形にしていきました。

うめ組の子どもたちは「あざぶっ子まつり」の楽しかった経験を通して、おまつりごっこも楽しみました。お母さんたちがしてくれたことや昨年の年長さんがおまつりごっこに呼んでくれた先行体験があったので、ボーリングや乗り物、レストランなどの遊びのコーナーができました。「すみれ組、みかん組も呼びたい」ということになり、小さい組をお客さんに呼んで遊びました。こうして、体験したことが遊びの中で再現され、繰り返されていきます。幼稚園では、楽しかったという経験を日々の保育の中で重ねられるようにしていきます。

プラネタリウム遠足

プラネタリウムつくろう

お祭りごっこ